

- .....
1. 開催日：2024 年 2 月 17 日（土）午後
  2. 開催場所：名古屋会場・東京会場・オンライン（ZOOM 開催）
  3. 参加者の地域：関西・中部・関東
- .....

今年度の「産業デザイン財団賞」授賞式は、名古屋会場、東京会場およびオンラインの三形態を併用し、ZOOM 開催にて執り行いました。以下のとおりご報告いたします。

.....

## 1. 理事長挨拶（理事長 阿部 惇氏）

テクノ未来塾「産業デザイン財団賞」は、2020 年度よりスタートし、今年度で 4 年目となりました。今年度も、「夢と志をもった技術者」がテクノ未来塾の特色である自立・自律という理念を活かし、自分たちの活動を様々な形で社会に向けて発信されたことを称えたいと思います。



「テクノ未来塾のバリュー（行動指針）は、多様なバックグラウンドを持った会員・塾生の多様な知による新しい知の創出のために、議論を通じて共に学び共に成長すること。そして、得られた成果を発信・社会実装することである。NPO としての社会実装に舵を切ろう！」と、毎年の新年メッセージで繰り返し述べてきました。

今回のプロジェクトの取り組みは、まさに、社会実装に向けてテイクオフした事例だと思えます。テクノ未来塾は場であり機会です。相互の信頼関係をベースにアドホックで緩いつながりのなかで、社会実装という目的をしっかりと持ち、更なる高みを目指して活動を続けていきましょう。

今後も豊かな未来社会に貢献する独創的な活動を力強く進めていただくことを期待して、ここに表彰いたします。 それでは、表彰状を読み上げます。

表彰状 産業デザイン財団賞

江戸時代の技術とイノベーター調査 PJ 吉川 智 殿

開発技術名

「江戸時代を生きたイノベーターの調査」

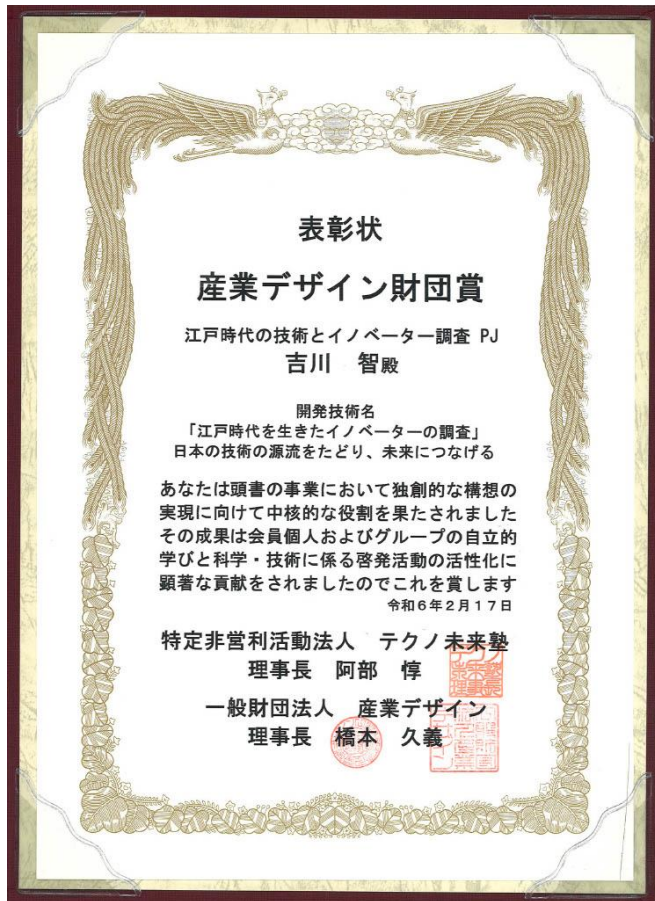
日本の技術の源流をたどり、未来につなげる

あなたは頭書の事業において独創的な構想の実現に向けて中核的な役割を果たされました。その成果は会員個人およびグループの自立的学びと科学・技術に係る啓発活動の活性化に顕著な貢献をされましたのでこれを賞します

令和 6 年 2 月 17 日

特定非営利活動法人 テクノ未来塾 理事長 阿部 惇  
一般財団法人 産業デザイン 理事長 橋本 久義

以上です。吉川さんはじめ関係者の皆さん、おめでとうございます。



## 2. 受賞者のスピーチ（吉川 智氏）

プロジェクトのメンバーと一緒に江戸時代のイノベーターを調査してきて、この度、代表として表彰状を受け取ることができ、光栄に思います。長い時間をかけてやってきましたが、今思うのは、いろいろと調べて、とにかく知ることが面白かった、ということです。面白かったからこそ続いたのだと思います。

また、読み物にまとめて初版本を出した後、取り上げたイノベーターに共通する資質は何か、どんな点が卓越していたのか、なぜ江戸時代にその地域から傑出した人物が出たのか、など考察を深め、その点を強調し、取り上げる人物やコラムも増やして増補・完全版を出版することができたのは、プロジェクトとして一つの集大成となりました。

それをベースにメンバーが外部の研究会で発表したり、独自活動で連続講義をしたり、と発展しましたが、特に大きかったのが、JST サイエンスアゴラへの出展でした。ターゲットを学生に定め、どうしたらイノベーターのすごさ、面白さが伝わるか、若い世代に未来を考えるヒントを提供できるか、皆で議論しながら様々な工夫をして準備を進めました。出展の2日間で200名を超える方がブースを訪れ、想定以上の大盛況となりました。この経験を活かし、「技術の源流を江戸に求め、未来共創へと繋ぐ」活動を、面白い取り組みを、今後も続けていきたいと思っています。

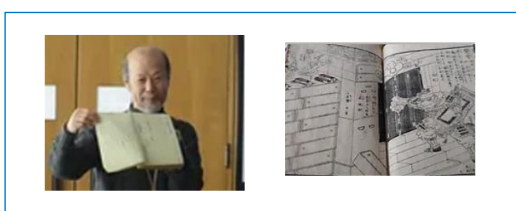
本日は、ありがとうございました。

### 3. 受賞プロジェクトの概要——受賞者のプレゼン（吉川 智氏）より（抜粋・編集）

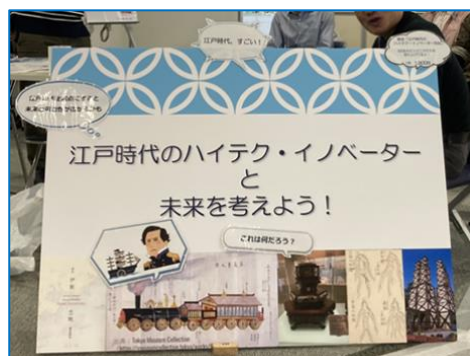


◇2017年11月 初版本を出版

◇2023年5月 増補・完全版を出版



◇国立科学博物館での拡大研究会



◇2023年11月18日-19日

JSTサイエンスアゴラ ブース出展



◆当初は、「一（いち）エンジニアとしてのアイデンティティを伝統技術に求められないか？」という問題意識で活動を開始。やや工芸寄りになってしまったため、技術に軸足を移し「江戸時代のイノベーター」にテーマを定め、調査を開始。

◆<活動趣旨>

企業出身の技術者達が集い、時空を超えた思索旅行。技術の源流を江戸に求め、未来共創へと繋ぐ！

◆<目的>

・江戸～幕末を生き残った技術者に着目し、先達の足跡を訪ねて全国各地の調査旅行を実施。

・学生時代に教わった歴史とは異なる視点で、技術者として積んだ経験があるからこそ理解できること・推察できることを整理し公開していく。

・解がどこにあるのか分かりにくい現代を生きる、我々技術者の背中を押し、未来共創につなげるヒントを探る。

◆<活動内容>

・技術者の視点で江戸のイノベーターをひも解く試み。

・江戸のイノベーターを各自選定し、関連する場所、施設訪問を企画、調査旅行を実施。調査対象を人物に絞ることで、当時のストーリーを描きやすくした。

・調査結果の書籍化を当初から想定。

・江戸のイノベーターの足跡をたどる…独自の調査ルート。複数人で行動を共にするところが重要！

・経験の共有、理解、ディスカッション！

◆調査対象を広げてフィールド調査を継続する一方、専門家を招いて新たな視点や示唆を得る研究会を開催し、議論して考察を深めた。（東京理科大・生越由美教授(2017)、国立科学博物館・鈴木一義センター長(2020)）

◆<考察>

・江戸時代に生きたイノベーターたちの技術への愛着、楽しみ、ワクワクし、共有する姿が思い浮かぶ。

・新しい技術の理解に努め、そして理解できるベースがあったこと。真似するだけではなく工夫を追加、少しでも良い物を、自分たちで作り上げようとする試行錯誤と努力の形跡

・各地にイノベーターが分散（幕藩の教育制度の充実・参勤交代・長崎出島）

・特に幕末、海外勢力の脅威にさらされる状況下、危機感だけではない強い原動力、遊び

◆知ること自体面白い！

自分の経験に置き換えて想像を膨らます



#### 4. 選考委員会 委員長より講評（理事 中村 善貞氏）



本プロジェクトでは、江戸から明治維新に向けた時期に日本で活躍したイノベーターの軌跡を辿り、現代の我々がこれから未来を切り拓いていく上で学ぶべきところを明らかにし、それを現在から未来のエンジニアに向け伝えていく活動をされています。

特に今年度は、今までの調査結果を改めて『増補・決定版 江戸時代のハイテク・イノベーター列伝』としてまとめられ、広く一般の方々に伝えるとともに、外部セミナーでの講演、および JST サイエンスアゴラ 2023 へのブース出展「江戸時代を起点に未来を思い描くと、未来の可能性が広がるかも」等々、上手く機会を捉えて社会還元に尽くされました。

今年度は、本賞への応募は本件のみでしたので、理事会にて本賞に相応しいかどうかを議論頂きました。各理事からは、下記の様な賛意を頂き、賛成多数で理事長に推薦、理事長の裁下を頂きました。

- ・組織外の幅広い年代層に向けて主体的に価値提供を行う活動を続けていた。
- ・出版だけでなく、各種団体との共同イベントに参加し、その価値を十分に PR することが出来ている。
- ・地道な調査を重ねて独自の価値を生み出し、書籍やブース出展など社会に貢献するアウトプット活動を積極的に推進している。
- ・日本の技術の源流をまとめて増補出版したのみに限らず、広く一般の方々に伝える努力が効果的に行われ、広い世代に知ってもらえた点も優れていたと思います。
- ・現代の技術者目線で江戸時代のイノベーターの足跡をたどり、独自の視点で彼らが業績を残せた理由を考察している。
- ・現在の視点に立って、江戸時代のイノベーターからの学びを抽出し、それを未来に向かって生かしていく活動を、広く社会に向かって展開しているところが賞の趣旨に合致している。

今回の選考の中では特に、

- ・テクノ未来塾の中に留まらず、広く社会にその成果(価値)を伝えているところ
- ・幅広い年齢層に、その成果(価値)を伝えているところ
- ・過去からの学びを、未来へと繋げる活動になっているところ

が評価されました。

他のプロジェクト・サークルを始め、会員のみなさんの活動が、上記のような視点で、より活発になり、来年度本賞に応募頂けることを願っております。

以上



<2/17 名古屋会場>



<2/17 ZOOM 開催の様様>